

緩和医療

チーム発足

緩和医療とは

近年の医学の進歩はめざましく、検査や治療に伴う苦痛は軽減され、多くの疾病が克服され治療が見込める時代となりました。しかし、「がん」診療においては早期発見や治療成績の向上をめざした精力的な努力にもかかわらずその治療成績は満足のものではなく、「がん」は一九八一年以後わが国では死亡原因の第一位の座を占めつつけており、現在はおよそ三人に一人が「がん」によって命をうばわれる時代となっています。

このように多くの方の生命を脅かす「がん」という疾患の医療において「緩和医療」という言葉はしばしば「終末期医療」と混同され、治療の術がなくなつた患者様に行われる治療のことであるという誤解があります。

す。しかし、そもそも患者様の症状や苦痛を緩和するという行為は、まさに医療の原点であり、特に「がん」診療におきましては、患者様が「がん」を克服でき

るかできないかにかかわらず、検査・治療の全ての場面で不安や痛みなどをはじめとする様々な精神的、身体的ストレスにさらされるために、疾患そのものに対する治療とともに疾患に起因する諸症状の緩和を行うことが、「がん」診療の質の維持に欠かすことのできない要点であると考えられます。

当院では、「がん」という疾患によってお悩みの患者様、そして患者様を支えておられるご家族の方に対して、適切な治療や情報を提供し、人生の貴重な時間をよりよく過ごしていただくように支援を行うべく、専門的なスタッフによる医療チームをつくり、皆様のお役に立てる活動を目指すと致しました。

緩和医療チームの紹介



緩和医療チームリーダー
麻酔科 科長

あんどう やすし
安藤 泰 先生

今年九月より「緩和医療チーム」を発足し、症状の進展や治療に伴うさまざまな身体的・精神的な苦痛のある患者様に対して、適切な緩和医療が提供できるように取り組みをはじめていきます。

緩和医療チームは、医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカーなどで構成されています。医師はリーダーの麻酔科(疼痛専門)、神経内科(心の痛み)、臨床腫瘍医(がん診療医)を中心に専門性と経験豊かなスタッフが揃っております。薬剤師は、薬の専門家という立場から、患者様の服薬指導や薬の管理方法をアドバイスします。看護師は、患者様を一番身近でケアさせていただき、痛みを和らげるような看護と苦痛なく日常生活が行えるように患者様とご家族を支

援します。ソーシャルワーカーは、福祉的な観点から患者様やご家族が抱える、心理的・社会的・経済的な問題を解決または調整できるように援助します。

活動内容は、まず緩和を必要とする患者様の紹介が主治医を通して行われます。次に、チームスタッフの代表が患者様ご自身にお悩みの症状や不安について具体的に伺いたいします。この情報をもとに、チームスタッフ全員が集まり、カンファレンス形式にてそれぞれ専門の立場から助言を行い、最善の対応策についてチームとしての方針をまとめて主治医へフィードバックしていきます。

当面は内科の入院患者様を対象として活動していますが、来年四月頃を目標に院内全科の患者様のご要望にお応えできるように体制を充実していきたいと考えています。

当院での「がん」の診療は以前より常に患者様主体の医療をめざしており、病名や病状の説明、治療方針の決定など診療にかかわるすべての場面で患者様ご自身のお考えをお伺いし、患者様と医療を行うもの双方が納得できる最善の治療を選択するというインフォームド・コンセントの考え方を徹底してまいりました。そして今、ある担当医師が自己の経験のみを判



緩和医療チームスタッフ一同

断のよりどころとして、一人の患者様を最後まで診療するという時代から、一人の患者様を中心に各分野の専門医が集合して診療を行うチーム医療の時代へと移行しつつあります。緩和医療の分野でも、スタッフ一同の知識や技術をさらに高めることに努め、より連携を深めて質の高い緩和医療を提供し、患者様やご家族にご満足いただけるような体制づくりを目指しています。

乳幼児の急性中耳炎



耳鼻咽喉科 科長

荻田 賢治 先生

急性中耳炎は、上咽頭（鼻の奥）

に感染した細菌やウイルスが上咽頭をつないでいる管を経由して中耳腔に感染することで発症します。通常、細菌やウイルスなどが体内に感染した場合には、それらに対する抗体が体内で作られて感染した細菌やウイルスなどの排除を行い、症状の発症を防ぐ免疫機能があります。子供では一般にこういった能力が大人と比較して低い状態にあり、特に三歳以下の乳幼児にその傾向があります。また、一部の子供においては他の子供と

比較して、この抗体を生産する能力が低いため上咽頭に感染を繰り返し、その結果、急性中耳炎を繰り返し発症することがあります。また構造上、子供の場合は大人と比較して耳管は長さが短く、その傾きも水平に近くなっているため

上気道感染にかかった場合に、大人と比較して上咽頭から中耳腔への感染がおこりやすくなっています。その他に耳管には、上咽頭と中耳腔の空気の交換を行い気圧の変化を調節したり、中耳腔に感染した細菌やウイルスを排除する働きもあります。一部の子供ではこれらの耳管の機能が悪いため、上咽頭に感染した細菌やウイルスが中耳腔に感染しやすくなり、急性中耳炎を頻回に起こすこともあります。

ここ数年、抗生剤の効きにくい、もしくは効かない細菌による急性中耳炎が増えています。急性中耳炎の原因となる細菌としては、肺炎球菌とインフルエンザ菌という細菌が主なものですが、これらの細菌に対し数年前までは効果のあった抗生物質が効かなくなっています。特にこれらの細菌は、保育園や幼稚園といった集団保育の場では、潜在的に広まっており、集団保育が行われている乳幼児の上咽頭にはこれらの細菌が、症状を

発症しないまま潜在的に感染しています。したがってこれらの細菌による急性中耳炎が一度発症すると、完治するのがなかなか難しく、また、集団保育が行われている場合には、抗生剤の服用が不完全になることが多いために、繰り返し急性中耳炎を発症する場合があります。繰り返し急性中耳炎を発症することが多くみられるのは、免疫機能がまだ発達していない三歳以下の子供であり、特に一歳以下で急性中耳炎を発症した子供では、繰り返し発症する傾向があります。つまり集団保育が行われている子供のなかでも発症の危険性は年齢によって大きく変わり、三歳以上の子供と一〜二歳以下の子供とは別々に考える必要があります。一〜二歳以下の子供が急性中耳炎を繰り返す場合には、その治療のために、そして集団保育の現場で抗生物質の効かない細菌が広がることを防ぐために、急性中耳炎が発症している間は、休園する事が望ましくなります。また、急性中耳炎を繰り返している一〜二歳以下の子供は、ウイルス感染の流行する時期も、できるだけ休園することが望ましくなります。

急性中耳炎を繰り返すことを防ぐためにこういったことが必要になってきます。

はじめまして、回復期 リハビリテーション病棟です。



回復期リハビリテーション
病棟スタッフ一同

『療養型病床群（十五西病棟）』は、九月より『回復期リハビリテーション病棟（回復期リハ病棟）』へ変更になりました。今まで以上に患者様への充実した看護・リハビリが提供できるよう、スタッフ一同気持ちを新たにしています。

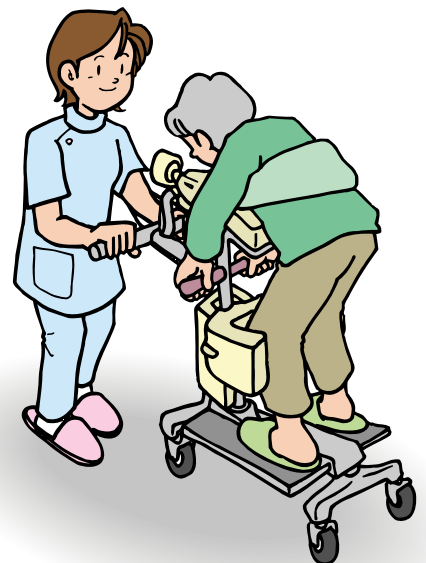
回復期リハ病棟では、看護師以外に病棟専従のリハビリ医師、PT（理学療法士）、OT（作業療法士）が配属され、急性期病棟での治療が終了した患者様が、よりスムーズに入院前の生活に復帰できるようにリハビリが行われています。対象患者様は脳出血や脳梗塞後の麻痺のある方、下肢を骨折した方などです。

看護師は患者様を抱えたり、床に座り込むことが多いため、写真のようにユニフォームを変更しました。また、病棟内で充実したりリハビリを提供できるよう畳台を新設したり、トイレや浴室の手すり、リハビリ用具等も増やしています。



病棟での生活は、退院後の生活に近づけるため、日中は寝衣ではなく活動しやすい衣服に更衣していただいています。また、食事も患者様方がにぎやかに、おいしくいただいてもらえるようメニューを用意しております。

患者様の家庭復帰・社会復帰を目指したりリハビリテーションプログラムをリハビリ医師、看護師、PT、OT等が共同して段階的に作成し、それぞれの患者様に適し



た看護・リハビリを提供しています。あわせて退院に向けての家屋改造のための家屋訪問も実施しています。また介護保険・施設入所の申請手続きなどにつきましてはMSW（医療ソーシャルワーカー）が相談を受けています。

一日も早く社会復帰ができるよう、スタッフ一同お手伝いさせていただきますので、よろしくお願います。



防火訓練について



近年、阪神淡路大震災、新宿歌舞伎町の雑居ビル火災等、大多数の死傷者を出す、自然災害や大火災が続発しています。原因としてはさまざまですが、災害により尊い人命が大多数失われたことは、本当に残念に思われます。

なかでも、新宿歌舞伎町雑居ビル火災の場合は、以前より消防設備の点検および設備の不備が指摘されていたにもかかわらず、十分な対策が講じられていなかったことが大惨事を招いた原因と言われています。つまり、施設側において、今後の非常時に備える上で重要なことは、過去の事例を教訓と

して、常日頃から消防設備の整備・消火器具の点検・避難場所の確保・緊急時の連絡方法の確立等に努めることであると考えます。

住友別子病院では、当然ながら法令に基づく消防設備を整備し、日常または定期点検に加え、万が一の事態に備え防火訓練も実施しておりますが、今回は特に防火訓練の実施状況についてご紹介させていただきます。

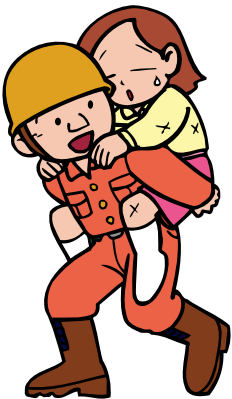
訓練は毎年二回（四月と九月）、四月には新入社員教育の一環として、防災に関するビデオの鑑賞および消防設備ならびに消火器具（消火器・消火栓）の取扱に関する説明等を行い、病院全体の防火訓練は九月で、本年は九月九日十六時より開催いたしました。夜間九時、一棟四階東病棟から火災が

発生したという想定のもと、夜間勤務者二十名により、火災発見の通報から始まり、非常放送設備による情報の伝達、消火器・屋内消火栓による初期消火訓練、シート・車椅子等による避難誘導および救助・処置等の防火訓練は計画どおり終了しました。

が、シート・車椅子が現場付近に手配されていた等、訓練の為の準備が周到であった面も見受けられたため、今後はより現実的な状況下での訓練計画および実施が必要との意見も寄せられています。

引き続き反省または改善すべき点の対応に努めて参りますが、非常時への十分な備えは言うに及ばず、まずは火災を発生させないことが何より重要です。これから

も、いっそう火災予防に取り組んで参りたいと存じますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。



==== 訂正のお知らせ ====

前号 4 頁 予防接種は一週間前までに予約して下さい。
小児科欄 乳児健診は前日までに予約して下さい。